

図書館情報

●お問い合わせ 本館 73-1616
清和 82-3033
蘇陽 73-2755

『1月のおすすめ図書』

「江一姫たちの戦国」

田淵 久美子 (たぶち くみこ) NHK出版 分類913

織田信長の妹であり、浅井長政の妻であったお市には三人の娘がいました。後に豊臣秀吉の妻となる茶々、京極高次の妻となる初、そして江戸幕府第2代将軍徳川秀忠の妻となる江です。物語は江を中心に戦国時代から江戸時代へと、女性たちが強く生きて行く様を描いています。大河ドラマ原作本で、著者は脚本も担当しています。



「マボロシの鳥」

太田 光 (おた ひかる) 新潮社 分類913



爆笑問題・太田光氏の処女小説です。とにかく小説を愛し、読む事で有名な著者が書いた9つの短編集。独特ともいえる「太田ワールド」が怒涛のごとく展開します。また、「第5回ボプラ社小説大賞」を受賞した齋藤智裕氏の「KAGEROU」も図書館で読むことができます。話題ばかりが先行する2作品ですが、興味のある方も多いと思います。まずは手にとって読んでみませんか？

「おおきな木」 シェル・シルヴァスタイン

(訳：村上 春樹 (むらかみ はるき) あすなろ書房 児童書

ひとりの少年と一本のりんごの木のお話です。成長し変わってゆく少年と、ただそこにあって与え続けたりんごの木。親子でぜひ読んで頂きたい、心に深く静かな思いを抱かせる物語です。長年にわたって世界中で愛されてきたお話を、村上春樹氏が訳しました。



「ノート&ダイアリースタイルブック」

エイ出版社 分類597

「一年の計は元旦にあり。」皆さんは、日記や手帳をつけていますか？ 子どもの成長を記す「育児日記」・読んだ本を記す「読書ノート」などを書かれるかたも多いようです。コラージュしたり、画を描いたり、写真を貼ったりしても楽しいですね。後で読み返すのも楽しい、思い出作りを始めてみませんか？



特集 『特集 武士に学ぶ』 「武士の家計簿—加賀藩御算用者の幕末維新—」

磯田 道史(いそだ みちふみ) 新潮新書 分類210

図書館では、ひとつのテーマに関する本を集めてコーナーを作り、さまざまな本をみなさんに紹介しています。今回の特集は「武士に学ぶ」です。「居眠り磐音シリーズ(著者：佐伯泰英氏、双葉文庫)」など読み物も多数ありますが、「使ってみよう! 武士の作法(著者：杉山頼男 並木書房)」などの武士のしきたりを紹介した本もあります。特に注目して紹介する本は「武士の家計簿—加賀藩御算用者の幕末維新(著者：磯田道史 新潮新書)」です。



金沢藩(現石川県)猪山家文書には驚くべき記録が残されていました。それは、37年間にも及ぶ一族の家計簿です。まんじゅう1個の購入から、莫大な借金の返済まで事細かに記録として残されています。猪山家は下級武士でありながら、御算用者(会計・書記官のような職)を仕事として時代を生き抜きました。「刀」ではなく「算術」です。家計簿は苦しい節約生活や、武士としての必要経費に迫られ借金返済に追われる内容にまで及んでいます。そして、幕末から明治時代への激動の時代、猪山家はその能力を生かして士族が没落していく中、活躍の場を見出していきます。歴史書としても価値の高い資料であると同時に、当時の生活がリアルに感じられる一冊です。時代は違っても、どこでも通用する能力を磨き続ける努力を惜しまない生き方。現代を生きる私たちに、もっとも必要とされる生き方ではないでしょうか。

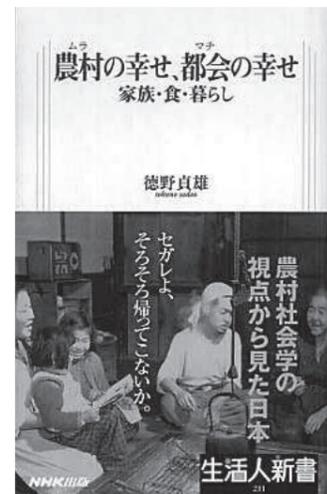
クリスマス会

絵本の読み語りやハンドベル演奏など、楽しい催しがいっぱいです。またご来場いただいたみなさんにサンタさんからのすてきなプレゼントがあります。ぜひ遊びに来てくださいね。

日時：12月25日(土) 午後2時~午後3時45分
場所：山都町立図書館 1階ホール



11月14日図書館ホールにて、第1回図書館セミナーを開催しました。講師の徳野貞雄氏は熊本大学文学部総合人間学地域社会学教授で、食と農の専門家として日本全国の農村でフィールドワークをこなす活動家です。キーワードは「家族とはなにか?」。一緒に住んでいること? 血が繋がっていること? 経済活動を一緒にしていること? 「家族」とは、種を繋いでいくための単位であり、一人一人が役割を担っているものであり、人間に特有の形態です。人間は動物とは違い、唯一「食べ物」を自分たちで作る「事ができる動物」です。そして、より収穫を確保するため「農」が発達しました。高度成長期には、自分たちで食べるだけでなく、産業としての「農業」のしくみが生まれ、第1次産業と呼ばれるようになりまし。しかし、この時期を境に家族の形態も大きく変わったのではないかと徳野氏は語ります。現代の日本は、農業国としての基本である家族の形態が大きく変わってきたことで、日本の農業が弱体化を進めているのではないのでしょうか。家族の人数が減り若い人たちは第2次、第3次産業の働き手として都会へ流失し、子どもの数が減少し社会全体の力が下降しています。農業



徳野 貞雄 NHK出版 分類361

自分たちが生産した物に誇りを持ち、農産物加工・販売をしていく力を身につけてゆく事が、国際社会にも打ち勝つ経営だと言えるでしょう。(これを6次産業と言います) 私たちが住む山都町に、もっと自信と誇りを持ち、人口の流失を少なくする事が「農」を支える事となるのではないのでしょうか。地元で育つ人材の流失を防ぐことが地域再生への近道と思われ。このままでは人から人へと受け継がれる文化や知恵も途絶えてしまうかもしれません。子ども達が住み続けたい町、大人が子ども達に自信を持って受け継いでもらえる町づくりを目指して行きたいと考えさせられる講演会でした。

図書館 だより



第1回図書館セミナー

「食と農を考える—人間関係資源がムラを救う—」
講師：徳野 貞雄